

# ユニバーサルデザインにつながる 「学校環境の整備」



～居心地、学び心地のよい学校～  
誰もが安心して学べ、生活できる学校をめざして  
(基礎的環境整備 編)



通常学級の中に在籍する発達障害を抱えた児童生徒は年々増加しています。「授業に集中することができず、離席をしてしまう子」「机の上や周りが散乱していつも注意されている子」またそれを起因とした、二次障害的な問題行動も見られます。学級担任は、その児童生徒や保護者に対するかわりについて苦慮しています。

「障害者差別解消法」が制定され、その理念を受け、「合理的配慮」が求められる中、発達障害をもった児童生徒のニーズに応えられる学校づくりは急務です。すべての児童生徒が安心して学べる学校、授業、環境について研究を進め、その一つの到達点として、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた環境づくりについて考えました。これは、藤枝市で長年進めてきた「子どもが安心して学べる学校づくり」につながるものであり、誰もが安心して学校生活を送れ、豊かな学びを保障する学校づくりに直結するものです。

発達障害を抱えた子どもへの配慮はそこにとどまるものではなく、すべての児童生徒にとって、居心地、学び心地の良い環境を提供することにつながると考え、ここに、ユニバーサルデザインにつながる「学校環境の整備（基礎的環境整備 編）」を提案します。

それぞれの学校で学ぶ子どもに合わせた校内、教室内の環境づくりを行い、子どもの「わかりたい、できるようになりたい」という願いや意欲を大切に授業づくりを進めましょう。

## クラスの子どもたちはどんなことに困っている？

### 〈情報量が多いと混乱してしまう子〉

- ・いくつかの情報の中から適切な情報を得ることが苦手な子がいます。
- ・優先順位がつけられない子、刺激にすぐに反応してしまう子がいます。

### 〈暗黙の了解がわかりにくい子〉

- ・整頓の仕方、廊下歩行の仕方など、ルールを示されないと分からない子がいます。
- ・見たまま、言われた言葉をそのまま受けとめる子がいます。
- ・その場の雰囲気をとらえることが苦手な場にそぐわない言動をとる子がいます。

### 〈こだわりが強い子〉

- ・予定の変更が苦手な子がいます。(例外が通らない子)
- ・普段と違うことに対して必要以上に躊躇してしまう子がいます。
- ・見通しが持てないと落ち着かない子がいます。

### 〈その他にこんなことに困っています・・・〉

- ・黒板の赤チョークなど、特定の色がわかりにくい子がいます。
- ・体温調整ができなかったり、光に当たることで体調を崩す子がいます。



# ユニバーサルデザインにつながる「学校環境の整備」

## (基礎的環境整備編)

### 誰もが生活しやすい環境づくり

#### 1 教室環境の構造化

- ・教室のものは置く場所を決め、置き方などが一目で分かるように整理する。
- ・教室背面は学習の足跡の掲示(子どもの作品や、学習の成果など)
- ・教室側面は、毎日の生活にかかわる係活動コーナー等(日直の仕事、給食当番表、清掃当番表、お知らせ、お便りなど)

#### 2 刺激量の調整

- ・学習に集中できるように刺激量を制限する。
- ・教室前面は学習に集中できるよう掲示物は必要最小限な物とする。

#### 3 ルールの明確化

学級内のルールを「見える化」する。「見れば分かる」ことが大切である。(机整とんマーク表示や、清掃ロッカーの写真掲示等)

#### 4 子ども同士の相互理解

規律ある整然とした環境で、お互いの安心・安定を生みだし、あたたかい学級づくりを進める。

生活しやすい環境づくりは、学級だけでなく、学年、学校で共通理解をして取り組むことが大切です。担任が替わる、教室がかわることが児童生徒にとって混乱の原因にならないように、どの教室も使い方を共通にするとよいでしょう。

#### 3 収納品の目隠し(教室の棚)

教室のガラス戸棚等には、中身が見えないよう目隠しシートを貼ったり、カーテンで隠したりして、余計な刺激を減らす。



#### 4 いつでも机 整頓マーク

いつも決まった位置に机を置くことによる整然とした環境は、子どもたちの心の安定につながる。

机の脚の子ども側に印をつける。こうすると、子どもたちは座ったままでいつでも自分で机の整頓ができる。



#### 5 ロッカーの上を有効活用

個人のファイルBOXケースを使用することで、学校に置いていってよい物や、プリント・ノートなどを傷めることなく個人でしっかりと管理することができる。個人用のロッカーの中が整理しやすくなる。



#### 1 黒板周りをスッキリ



教室前面の壁面の掲示物は必要最小限なもの(教育目標、ステージ目標など)にすることで、子どもたちの授業への集中力が高まる。黒板の周辺にはできるだけ掲示しない。

#### 2 色のバリアフリー

赤、緑、青は  
アンダーラインや囲みをつける  
時に、太めの線でわかりやすく！

白や黄の字は  
みやすいです。

げんきであかるい子  
げんきであかるい子  
げんきであかるい子  
げんきであかるい子  
げんきであかるい子

色によって、学校生活で不便を感じている子どもがいる。色の見え方が他人と異なる子ども(色弱・色覚異常)への配慮が必要。

- ・チョークの色は、白と黄色を基本にする。
- ・緑、青などの暗い色のチョークは極力さける。
- ・ユニバーサルデザイン対応のチョークを活用する。
- ・大きく、はっきり書く。
- ・掲示物、プレゼンテーションでは色の数を少なくし色の多用に注意する。

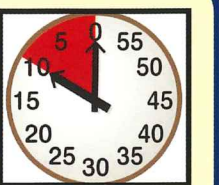
#### 6 提出物収納カゴ

毎朝の提出物は、何を、どこへ提出するのか誰にでも分かりやすくしたい。1日のよいスタートにもつながる。提出の仕方を工夫することで担任もノート回収、点検、配付がしやすくなる。



#### 7 作業など時間の区切りがわかるようにタイマーを使用する

文字盤もはっきりと見える大型のタイムタイマーや、残り時間が掲示されるカウントダウンタイマーを使うと、終わりまでの気持ちの整理や準備などができるため、強力な支援の道具となる。



#### 8 教室側面・教室背面の掲示

掲示物の内容や量を整理し、厳選したり、掲示位置を工夫したりすることは学習環境づくりとして大切な視点である。

**教室側面**は毎日の生活にかかわるコーナー(日直の仕事、給食当番表、清掃当番表、係活動など)

**教室背面**は、学習の成果や、学習の足跡がわかるようなコーナーとしてつかう。(子どもの作品、授業のふり返りなど)



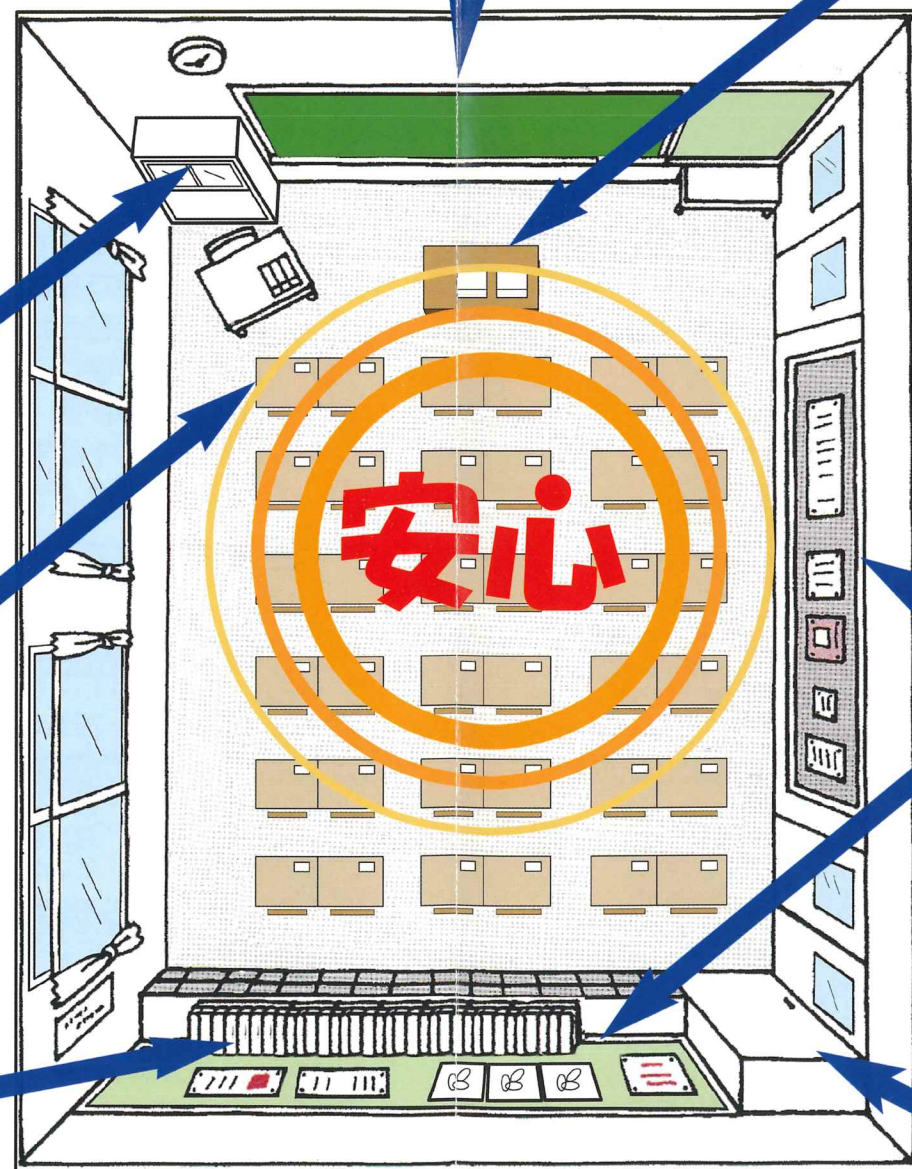
#### 9 見れば分かるルール

写真の見本を示して片付けやすいよう工夫する。

いつもきちんと整頓することで道具の劣化も防ぐことができる。物を大切にしようとする心も子どもの中に育っていく。



※ その他、有効だった取り組みを校内で紹介し合い共有しましょう。



※ 写真は、藤枝市内で先進的な取組をしている学校のものです。



## 鉛筆の持ち方

人差し指と親指はかさねないで高さをそろえる

鉛筆の軸は親指と人差し指の根元までいかない。親指は軽く曲げる



小指は軽く曲げて紙につける

よくない持ち方だと肩がこってきたり、目が疲れやすくなったり、姿勢が悪くなったりして勉強も長続きしません。

## 正しい姿勢

机の高さは背筋を伸ばした時のヒジの高さで

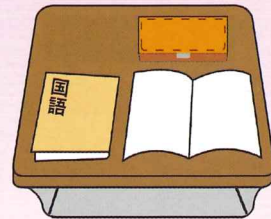


イスの高さは正しい姿勢で足の裏が床につく高さ

身体が大きく成長する小中学校において、適正な高さのイスや机で授業に臨めるようにしましょう。

## 机上・机の中の整理

関係のないものは机の中に入れ、机の上は常に整理する



机上の整理整頓は学習効率に影響します。小学校では道具箱を引き出し代わりに使っています。整理整頓ができない子どもには積極的に声かけしましょう。

# 小・中9年間を見通して「習慣」をつくりましょう

## 時間を守る

教師が始まりや終わりの時間をきちんと守ることは、子どもを大事にすることにつながります。

時間を守る人間は、信用や信頼も高まります。時間を守ることは大切であることを伝え、大人になっても常に時間を意識して生活できる人を育てましょう。

## 聴く・話す

### ★あたたかな聴き方

話す人を大切にすることにつながります。(話す人の気持ちを考えて)

### ★やさしい話し方

聴く人を配慮することにつながります。

このような子どもたちのかわわりが思いやりあふれるピア・サポートにつながっていきます。



## さわやかなあいさつ

「おはようございます」  
「こんにちは」「ありがとう」  
「はい」「わかりました」  
「しつれいします」  
「さようなら」...

あいさつは、人と人をつなぐ第一歩です。相手の目を見て、明るく、元気に、笑顔で気持ちのよいあいさつをしましょう。まずは、教師から模範を示しましょう。思いやりの心を言葉や行動で表し『藤枝マナー』を実践していきましょう。



## 声のものさし

子どもの声が騒々しいと教師の声も大きく早口になったり、叫ぶような感じになったりして、教師の声が刺激やストレスになる場合もあります。

音への意識を高めて、まわりに配慮できるようにしましょう。公共の場などでのマナーや礼儀につながるものです。

